

ある町の 天気相談所

Vol.66

2023.6.2

令和5年6月号



大きな気温の変化

5月は暖気と寒気が同居するため、気温の変化が大きな月です。翌日との気温の差が5℃以上の日数は平年で5日あり、70年間の記録では最大14・4℃差があった時もありました。今年の5月もフェーン現象などにより暑い日もあり、5℃以上の差があった日数は4日でした。

大きな気温の差があった日（最高気温）		
差 5.1℃	3日 19.4℃	4日 24.5℃
差 8.9℃	6日 29.1℃	7日 20.2℃
差 6.4℃	16日 22.6℃	17日 29.0℃
差 5.8℃	18日 32.2℃	19日 26.4℃

（過去の5月の記録）

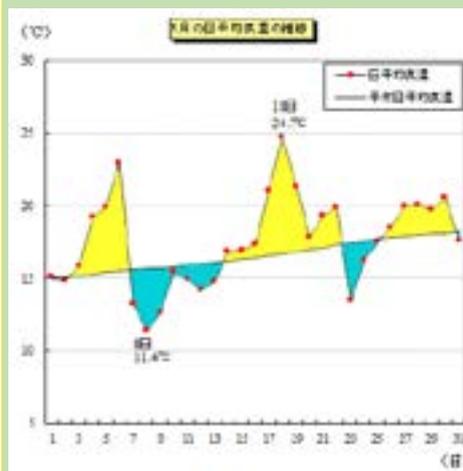
5℃以上の差が多かった年 13日（1997年）

差が最も大きかった時 差 14.4℃ 1993年

16日 29.6℃ 17日 15.2℃

5月の気候

5月は、低気圧と高気圧が交互に進み、天気は周期的に変わりました。気温の変動は大きくなりましたが全体的に高く、月平均気温は17・5℃と平年より高く、18日には5月として最も高い32・2℃を記録するなどしたため、最高気温の平均は5月としては過去2番目に高い気温となりました。雨も周期的に降りましたが、晴れの日も多く、月合計降水量は119・5ミリと平年の75%と少なく、月合計日照時間は192・3時間と平年の111%でした。



一ヶ月予報（気象庁発表）

6月は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。中旬はやや気温が高くなりますが、平均気温は「ほぼ平年並み」降水量は、はじめ多くなりそうですが「ほぼ平年並み」日照時間も「ほぼ平年並み」の予想です。

熱中症になりやすい気象条件

熱中症になる方が増えるのは、気温が高くなったときです。しかし、「熱中症になるのは0℃以上です」とはいえません。それは、体が暑さに慣れる前となれた後では、25℃の気温でも感じ方が違ってくるからです。また暑さに慣れていない夏のはじめは、気温の変化も大きい季節のため、急に気温が上がる時が熱中症に注意が必要です。夏本番になると、体も暑さになれてきていますが、この時期は、暑さが続く期間に注意が必要です。暑い日が続くと、徐々に疲れがたまり、寝不足なども重なることで、体に影響が出てくる場合があります。

熱中症に影響をあたえる気象条件は、気温だけでなく、湿度や日ざしもあります。同じ気温でも湿度が高いと熱中症の危険が増え、日ざしを直接浴びるか、日傘や帽子などで防ぐかによっても影響は変わってきますと言われてます。熱中症の危険性を表す指標として、暑さ指数（WBGT）と言われる物が使われてきています。特に屋外でのスポーツや作業の際に、この暑さ指数を参考にすることで、熱中症予防を効果的に行うことができます。

引用文献

熱中症環境保健マニュアル2022

環境省編

天気用語の基礎知識

濃霧注意報

濃い霧により、見通しが悪くなることによる交通障害等の災害が、発生する恐れがあると予想された際に発表。霧は水滴などにより視程が1kmを下回る時の事をいい、視程が数十mしかないような場合もある。茨城県内の内陸部では雨の後などの水蒸気が多い時に濃い霧となるために発表されることが多く、日立市などの沿岸部ではこれに加え、海上で発生した霧が陸地にかかることにより発表されることも多い。濃霧については警報や特別警報はなく、注意報のみである。

・・・神峰の山から・・・

5月は25℃以上の夏日が6日、30℃以上の真夏日が1日ありました。この日数は5月としては2番目に多い記録となっています。6日に29・1℃、17日に29・0℃18日には32・2℃と、少し25℃を超えるような気温でなく、大幅に超える日が多くなりました。これは、南西の山を越える風が吹いたことによるためなのですが、風向きにより気温が大きく変わる、日立市（市役所付近）の特徴が現れました。瞬間的に気温が高くなる時もあるなど、1日のうちでも風向きで気温が変わることも多いです。

「南西の風が吹いてきてしまった」など風向きや気温の表示を凝視してしまうときもあります。